

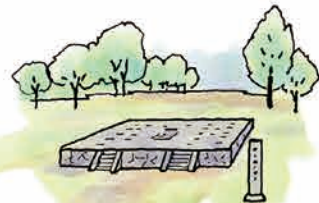
注)掲載内容は2026年3月1日現在で作成しています。掲載内容は予告なく変更する場合があります。

① 多賀城跡附寺跡(政庁跡)[特別史跡・日本遺産]

約900m四方に及ぶ城内の中央に約100m四方の政庁跡があります。政庁は古代多賀城の重要な政務や儀式が行われた場所でした。陸奥国府も置かれ、平安時代に都の貴族たちは「みちのく」にあこがれ多くの歌人が歌を詠んでいます。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩26分



② 政庁南大路

政庁南大路は政庁と南門をつなぐ多賀城のメインストリートです。発掘調査では道路側溝のほか、階段や石垣、排水施設などが発見されました。復元された路幅は、政庁第I・II期の13mとなっています。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩23分



③ 城前官衛エリア

城前官衛は、奈良時代から平安時代まで「役所」として使われていました。整備では政庁第II期の姿を再現しています。この時期は多賀城に鎮守府が置かれ、陸奥国のほか出羽国まで監督下に置き蝦夷対策を進める拠点でもあり、城前官衛がその鎮守府の業務を執行行っていた場所だと考えられています。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩23分

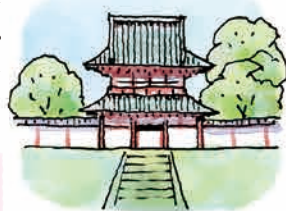


④ 多賀城南門と築地塀

復元された南門は、8世紀中頃(政庁II期)のもので、多賀城外郭に設けられ、東北の政治文化の中心であった多賀城の入り口に当たる重要な施設とされています。南門は高さ14.5mの二重門で、両脇につく高さ5mの築地塀も合わせて復元されています。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩20分



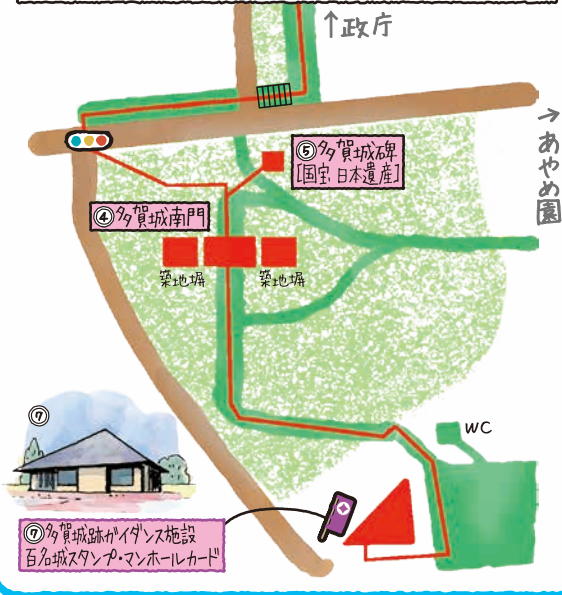
「多賀城」とは

奈良時代神亀元(724)年、中央政府の東北支配の拠点として設置された「多賀城」。陸奥国を治める国府としての役割に加え、陸奥、出羽両国を管轄する広域行政府であり、さらには征夷大將軍・坂上田村麻呂が派遣されるなど、蝦夷(えみし)と呼ばれる人々を中央政府の支配下にしようという重要な役目を担いました。多賀城の特徴は築地塀を巡らされた政庁という中心となる区画があることと、その外周に築地塀や材木塀を巡らせ、城内を二重に囲っていることです。多賀城跡は平城宮跡(奈良県)、大宰府跡(福岡県)とともに日本三大史跡に数えられています。



多賀城市観光協会
キャラクター「たがもん」

ガイドンスから南門・多賀城碑・政庁へ



古代米『しろのむらさき』

多賀城の遺跡からはさまざまな米品が出土しています。その中にあったのが米袋につけたと思われる「黒春米」と書かれた木簡。この地では奈良、平安時代に米が納められた歴史がありました。これを受け、多賀城市観光協会が平成28年1月に発表した古代米を使用した多賀城グルメブランド「しろのむらさき」。一般的なお米に比べ古代米は、ミネラル、ポリフェノールなど美容や健康にも良いと言われる成分を含んでいます。



⑩ 東北歴史博物館

東北地方全域を視野に入れた歴史系の博物館です。旧石器時代から現代までの歴史を中心とした展示・映像上映を行っており、移築・復元した古民家では江戸時代の暮らしを体験できます。

時間: 9時30分~17時(最終入館16時30分)
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩2分



レストラン&Sun(アム・サン)
グリーンカレー・フォーなどが食べられる店があります。



⑨ 館前遺跡[特別史跡・日本遺産]

館前遺跡は、多賀城跡の南東200mの台地上に位置する9世紀頃の建物群です。四面に廂(むさし)がつく主殿を中心として6棟の建物が配置されていました。この建物は多賀城に赴任してきた国司の邸宅が城外に置かれた役所の跡であると考えられています。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩2分



⑧ 多賀城廃寺跡[特別史跡・日本遺産]

多賀城とともに東北地方の平定と国家の平安を祈願し建立された付属寺院。伽藍配置が大宰府(福岡県)の観世音寺と類似。史跡公園として全国で2番目に整備されました。

アクセス

JR東北本線・「国府多賀城駅」より徒歩10分

